

第 1 回行政改革懇談会 会議録	
日 時	平成 28 年 7 月 4 日（月）午後 3 時 00 分～午後 4 時 35 分
会 場	子ども情報センター 2 階 研修室
出席委員	寺澤朝子委員（会長）、水野将也委員（副会長）、大川真司委員、小栗真一委員、 加藤智章委員、隈元智子委員、瀬瀬育恵委員、松山美穂委員、水野隆吾委員 (委員 10 名中 9 名出席)
欠席委員	日比野碩治郎委員
事 務 局	古川雅典多治見市長、鈴木企画部長、柚木崎企画防災課長、若尾公共施設管理室長、 山田課長代理、水野総括主査、林主査
傍 聴 人	0 名
会議録要旨	
1 市長挨拶 合併後の多治見市は、貯金にあたる基金は右肩上がりで増やしており、借金である起債残高については概ね横ばいで推移している。合併特例債 194 億円は、市民が幸せになる事業を選択し実行してきた。平成 19 年 4 月には 1,001 名いた多治見市役所の職員数を、平成 28 年 4 月には 755 名まで減らしてきた。 これまでの行政改革とは、行政の無駄を削り、職員を減らすものであり、多治見市は行政サービスが提供できる最低限まで職員を減らしてきた。しかし、職員が減ったからといって市民サービスを落とすことはできないため職員の生産性を上げることが今回の行政改革では重要と考えている。 また、行政の無駄を削ることを進めてきたが、まだ無駄があれば指摘をしていただきたい。限られた財源の中で市民の幸せになることを進めるのが行政の役割だと考えている。	
2 委嘱状交付 《市長途中退席》	
3 委員自己紹介	
4 会長・副会長の選任 事務局 多治見市行政改革懇談会設置要綱第 4 条の規定では、会長及び副会長を互選することとなっている。立候補、推薦はないか。 《なし》 事務局 無いようなので事務局案として、会長に寺澤朝子委員、副会長に水野将也委員を推薦するがいかがか。 《拍手多数》 事務局 では、寺澤会長から挨拶をいただきたい。 会長 会長という大役を務めさせていただくこととなり、責任を全うしたい。	

多治見市は行政改革を前向きに進めているが、環境の変化に対応していけるような行政改革大綱となるよう、皆様と議論を進めていきたい。 事務局 次に、水野副会長から挨拶いただきたい。 副会長 好きなまち多治見のために頑張りたいと思う。	
5	会議の公開・非公開の決定 会長 第1回目の会議となるため、多治見市情報公開条例に基づき、この会議の公開・非公開の決定をお諮りします。この会議を公開とすることによろしいか。 《「異議なし」の声》 会長 この懇談会の会議は公開とする。
6	議題（１）：多治見市行政改革大綱とは 事務局 資料２「多治見市行政改革大綱とは」に沿って事務局から説明 会長 質問や意見等あるか。 《なし》
	議題（２）：第７次行政改革大綱の取り組み状況 事務局 資料３「第７次行政改革大綱」、資料４「平成２７年度における第７次行政改革大綱の進捗状況」、資料５「第７次行政改革取組状況と削減額」に沿って事務局から説明 会長 質問や意見等あるか。 《なし》
	議題（３）：第８次行政改革大綱（骨子）について 事務局 資料６「第８次行政改革大綱（骨子）について」に沿って事務局から説明 会長 質問や意見等あるか。 《なし》
	議題（４）：第８次行政改革大綱スケジュールについて 事務局 資料７「第８次行政改革大綱策定スケジュール」に沿って事務局から説明 会長 質問や意見等あるか。 《なし》
	意見交換（自由討議）

- 会長 第1回目の行政改革懇談会であるため、これまでの行政改革の取組や第8次行政改革大綱策定のポイントなどを事務局に説明いただいた。次回以降、事務局から提案いただいた内容について議論していくが、各委員の行政改革に対する考えやイメージについてお話しいただきたい。
- 副会長 多治見市の課題として説明いただいたが、全国的な課題だと思う。しかし、課題に対する答えは全国的なものではないと思うので、多治見市の答えを出せるよう発言していきたい。
- 委員 合併特例債の性格もあると思うがハード整備の報告ばかりだったように感じる。ソフト事業としてはどのようなものがあるか。また、骨子の中に「春から冬の時代」とあるが、そこまで厳しい財政状況なのか。
- 事務局 合併特例債は新市建設のための事業に充てるための起債であるため、ハード整備の成果が大きくなっている。ソフト事業の成果としては、笠原町が文部科学省の認定を受けて進めている英語教育を全市に広げる取組などがある。
- 「春から冬の時代」とあるのは、合併の特例措置で新市建設を進めてきたが、合併特例措置が段階的に減少しながら終了していく。そのような財政状況で、今までと同じ行政運営を進めることができないという危機感を表現するために用いている。
- 会長 「春から冬」は危機感をもつためのキーワードであると。
- 委員 新市建設のために整備された施設は必要なものばかりであった。特に駅舎や火葬場についてはよくなったと思う。立派な建物は維持管理がかかる。
- 陶都通りは国道248号線の渋滞緩和につながったと思うが、多治見の渋滞解消には国道19号線の渋滞緩和が必要である。自動車も今がピークで今後は減少傾向にあると思うが、渋滞解消は多治見の課題だと思う。
- 市有施設が第8次行政改革のテーマとなっていたが、古い施設はその場所にある理由を考えていただきたい。場所が変われば人の動きが変わってしまうため、長寿命化を進めてほしい。
- 事務局 2年に1回実施している市民意識調査では、毎回渋滞が課題として挙がっている。道路整備には時間もお金もかかるため、多治見市では南北へ移動するため（仮称）平和太平線の整備に向け、岐阜県と協議を進めている。
- 市有施設については、維持管理を抑えるため、更新する施設は複数の機能を一つの建物に持たせる複合施設で整備する方針である。そういった検討をする場合には、利用者の現状や場所を考慮しながら整備していきたい。
- 委員 合併協議会に入っていたが、先ほどの説明で合併の成果が挙がっていた。説明にもあったモザイクタイルミュージアムは、合併当初は「道の駅」として場所も違うところに建設する予定であった。また、当初目標としていた入場者数も開園数か月で達成できそうなほど評判である。
- 委員 「まるごと元気」を目指して取り組んでいることはよく伝わった。
- 第7次行政改革大綱の成果の説明にあったが、初年度（平成25年度）の削減額は

大きかったが、それ以降の削減額は小さい。時代は進んでいるので、4年間の行政改革大綱でも見直しが必要なのではないか。

庁内のワーキンググループを関係課で行うようだが、横串の視点（組織・政策の横断的な視点）はあるのか。策定本部会議など上層部が横串の視点で見ることとなるが、実際に事務を行う担当者にも横串の視点が必要ではないか。

行政改革大綱という枠にとらわれず、やるべきことを明確にし、すぐできることはすぐやるようにしてほしい。

会長 ワーキングは「攻める」立場とあるが、現実的には難しい。担当課は事務を行うため行政改革事業を挙げにくいと思うので、担当課が挙げた事業は応援し、それ以外についても事務局が横串の視点で考えていただきたい。

事務局 仕事の5Sを進めることで生産性を上げたいと考えている。市役所での5Sでは、机上を整理整頓するだけでなく、事務フローの5Sを進めることで実現していきたい。

委員 社会福祉協議会は多治見市と関係が深いので、多治見市の行政改革が進めば組織が苦しくなるかもしれないが、多治見をよくするための目線で議論していきたい。

委員 NPO法人チアーは、東濃の恵那から中濃の川辺町までの広い範囲で活動している。福祉サービスも自治体によって異なるが、多治見市の福祉サービスは充実していると思う。そういった情報を発信しながら、アツイまちにしていってほしい。

委員 今が滝呂小学校の児童数のピークの時期だと思うが、夏休みの学童保育が120人と多く、理科室に扇風機3台と網戸を設置して実施すると説明を受けた。子育てをする母親としての視点になるが、少子化で全市的には子どもの数が減っているが、住宅団地では一定期間でも子どもが多い時期があるため、そういった子どもたちへのサービスも必要だと思う。

会長 同じ働く女性として、保育園同様、学童保育は重要だと思う。

7 その他

事務局 行政改革キックオフ講演会を7月14日に開催するため、都合がつく方は、出席いただきたい。第2回行政改革懇談会は8月中旬の開催で、後日、日程調整をさせていただく。

会長 これで第1回行政改革懇談会を終了する。

<会議終了>